



## 【取組2】(テーマ) 家庭と連携した取組

### ・料理教室

給食メニューや前年度のひろしま給食を取り入れた保護者対象の料理教室を6月に実施した。夏休みに向けて、親子で料理をしようという気持ちをもってもらうために、児童に人気のある給食メニューや簡単メニューを取り入れた。

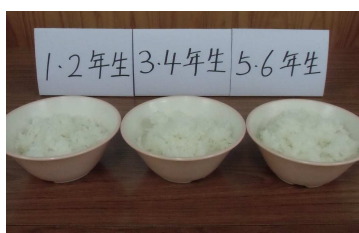
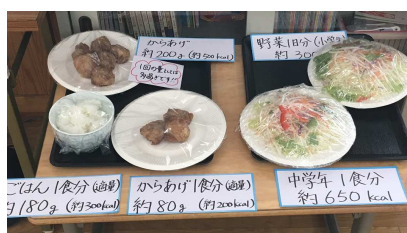


### ・給食学習会

学校給食の紹介に加え、朝食摂取率向上に向けて、朝食の意義や必要性について伝えるとともに、簡単朝食レシピ集を配付した。

### ・お話ししましょう会

養護教諭と連携し、学期末の個人懇談会に合わせて保護者との個別相談会を実施した。肥満傾向や少食、偏食、朝食欠食等課題のある児童に対して、学級担任から保護者に声かけをすることで、多くの保護者に参加していただくことができた。発育測定の結果などをもとに成長状況を踏まえ、個々に見合った食事を摂取することや朝食の必要性を伝えた。また、小学生にふさわしい1食分の食事量や給食のごはん基準量の展示、茶碗へごはんをよそう体験コーナーを設けることで、実生活に生かすことができるよう工夫した。



## 4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

呉市では市内で統一したメニューを提供するため、栄養教諭や学校栄養職員が協働して「ひろしまオールスター★担々丼」に組み合わせるメニューの研究を行った。また、1月の全国学校給食週間では、呉市の児童生徒が応募した作品の中から「ひろしま給食 呉市版」として、「食べてくれ～汁」を「ひろしまオールスター★担々丼」と組み合わせて提供した。児童生徒のメニュー開発への思いとともに呉市の地場産物等の紹介もした。朝食リーフレットに掲載された呉市内の児童が考えたメニューを給食に活用することで、児童や生徒のがんばりを家庭に広めることができた。



## 5 取組に対する成果と課題

### 【成果】

生活リズムに関する個別指導後の児童の様子から、自分の生活を改善していこうとする意欲が見られた。

朝食の「お手伝いチャレンジカード」には、保護者の感想に「普段は箸が進まない朝食も、自分で作ると楽しく食べていた」とあり、朝食摂取の意欲付けになっていた。また、児童の感想には「お手伝いをしたことで、朝食の大切さを改めて感じた」、「お母さんたちが栄養のある朝食を作ってくれるのは、バランスの良い食事が大切だからだと思った」などがあり、バランスのよい朝食摂取につながる取組となった。

### 【課題】

早寝早起き朝ごはんの定着率は7月では91.9%だったが、1月は91.3%であった。朝食の摂取率も下がっており、7月には96.4%だったが1月は96.2%だった。年間を通じて朝食を摂取する意欲付けが必要である。また、朝食を欠食する児童が固定化していることや、朝食の必要性を感じていない児童も見受けられ、個別指導を継続していく必要性を感じた。

## 6 今後の取組に向けた改善方策について

養護教諭や学級担任と連携し、生活習慣と合わせて朝食摂取に向けた取組を継続する。また、朝食に関する指導や給食学習会の内容など学校の取組を家庭に伝えたり、朝食おすすめレシピを通信に掲載したりすることで保護者啓発の充実を図る。